

すっかんぽ

☆ 研究室だより No.7

1992年11月号

メリーゴーランドの 甘い罠

アミメカゲロウ研究グループのメンバーは、北は福島県から、南は、大分県まで、全国各地に散らばっている。その取りまとめ役をしていらっしゃるのが、四国は香川大学の渡辺直先生なのである。(教育学部環境科学科教授、回りからは、直さんと呼ばれているそうだ。) 各地の研究者のデータは、渡辺先生のもとへ集められ、コンピュータで解析され、集団羽化のしくみもここで解き明かされようとしているのだ。そこで私は11月25日から4日間、渡辺先生をはじめとするアミメカゲロウ研究者や生息地を訪ねる情報収集の旅に出たのである。



11月25日 佐野——小山 ^{新幹線} 東京 ^{新幹線} 岡山——高松(泊)
9:17 9:45 10:19 11:04 11:17 15:14 15:45 16:41
自宅から香川大学のある高松市まで、約8時間の長旅であった。
翌日の午前10時、環境科学科の研究室のドアをたたくと、白衣姿の渡辺先生が出迎えてくれたのである。部屋の一角は、データ解析用のコンピュータで占められているが、残りは、顕微鏡やカゲロウの標本、そしてカゲロウ採集セットが所狭しと置かれていた。ここで、特に目玉引いたのは、渡辺先生が考案されたというアミメカゲロウ採集用ライトトラップであった。

前回紹介した宇大式ライトトラップは、手でカゲロウを集めて採集びんに入れる方法で、かなり忙しい思いをしてきたが、この香川大式ライトトラップは、その作業を全自動化してしまつたのである。右のスケッチのように、高さは約1mであるが、下から2番目のプラスチック製円盤が一定時間ごとに回転するのだ。つまり、蛍光灯に集まってきたカゲロウは、下の漏斗に落ち、そのまま採集びんに入る。そして、一定時間(例えば5分)がたつとびん一つ分だけ、モーターの回転でずれるのだ。そして、人間様は、びんにふたをして回収すればよいのである。まさに、カゲロウのメリーゴーランド。光に誘われて入ってしまったら、もう出られない甘い罠が待ち受けているのであった。

